

みんなで男女共同参画の輪を広げよう

男女共同参画市民情報誌ゆっパル特別版

### 移住者として伝えたい想い

3人目の子どもの出産を機に、神奈川県から妻の実家のある十和田市へ移住してきて5年が過ぎました。まず、最初に思うことは「なんでもっと早くここへ来なかったのだらう」ということ。豊かな自然の中、子どもたちがたくさんを経験を積みながら成長していくさまを見ることに日々幸せを感じています。現在は4人の子どもがいるため、子育てもなかなか楽ではありません。それでも何とかやってこられたのは、妻の両親、兄弟をはじめ、十和田でご縁をいただいた方の多くの協力があるからです。環境だけではなく、助け合う心の根付いた街であることも良さであると感じています。自分自身の暮らしを通じ、魅力あふれる十和田に遊びに来てほしい、もっと知ってほしいという気持ちがとても強くなりました。これは、私だけではなく、おそらく移住された多くの方が感じることだと思います。

私は、NPO法人でインドネシアの孤児施設への支援や、震災以降は被災地支援を行ってきました。特に福島県での支援活動においては、一言では語ることでできない複雑な現実を見てきました。外遊びが自由に

できない子どもたちを見たときに、

この十和田で思い切り遊んでほしいと思いついて「遊ぼう十和田！キッズサマーキャンプ」というプロジェクトを2014年に立ち上げました。多くの方が協力してくれることとなり、支援の輪は年々広がります。今年で5回目の開催となります。毎年多くの子どもたちが乗馬や自然体験を通じて、十和田の夏を楽しんでいます。私は、この活動を通じて十和田の人たちにも震災の現実や何を学ぶべきかを感じていただけることを願っています。

朝起きて感じる土の匂い、泥んこになって遊ぶ子どもたち、農家さんからいただくたくさんの季節の野菜、そんな当たり前の日常こそが最も幸せなことであり、それがたくさんの子どもたちの笑顔へとつながっています。ことを伝えていけたらと思っています。

#### ★筆者紹介



木村 一雄 さん  
NPO法人 みんな地球の子ども  
じゃん 十和田支部 代表

問 総務課広報男女参画係 ☎6702

「女と男」がともに輝くまちの実現をめざして

## 男女共同参画

問 総務課広報男女参画係  
☎6702



国では、毎年6月23日～29日の一週間を「男女共同参画週間」として、「男性だから、女性だから」という固定観念を捨て、男性も女性も、家庭で、職場で、地域で、学校で、お互いに一人の人間として人権を尊重し、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指して、さまざまな関係団体の協力のもと、各種関連行事を展開しています。

この機会に私たちのまわりの男女の役割について、ちょっと考えてみませんか。

人の行動や考え方を制限し、それが持つ個性や能力を發揮しづらくしてしまう可能性があります。

そのため、男女共同参画は、「男性」や「女性」というイメージにあてはめてしまうことなく、一人一人が持っている個性や能力を十分に發揮するために必要なことなのです。

### 男女共同参画社会とは

女性は皆、家事や育児が得意でしようか。

男性は皆、頼りがいがあり、バリバリ仕事ができるでしようか。

「女だから家事や育児が得意なはず」、「男だから頼りがいがある、家族を養うことができるだけの収入がなければならぬ」と言われるような社会は大変生きづらく、窮屈ではないでしようか。

得意なこと、得意でないことがあっても、それらが個性としてとらえられ、一人一人が自分らしく生きることができ、また、性別にかかわらず、「互いに協力し、仕事も家庭も大事にする」という考え方も受け入れられる柔軟な社会が「男女共同参画社会」です。

### なぜ男女共同参画が必要か

男女共同参画とは、「男(女)とはこういうもの(こうあるべき)」という考え方によって行動や考え方を制限されることなく、男女が良きパートナーとして、お互いに尊重しあい、さまざまな生活の場面で一人一人の個性や能力を十分に發揮できるようにしよう、ということなのです。

「男(女)とはこういうもの(こうあるべき)」といった考え方は、一歩間違えると自分だけでなく、周り